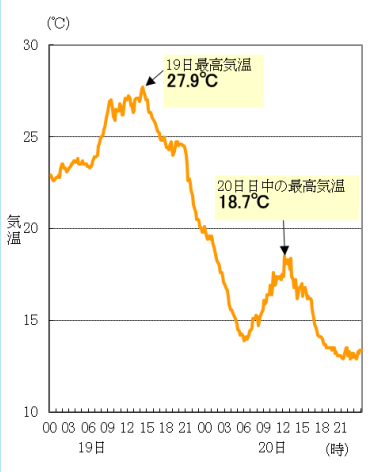
ある町の天気相談所

Vol.83　2024.11.01

令和6年 11 月号

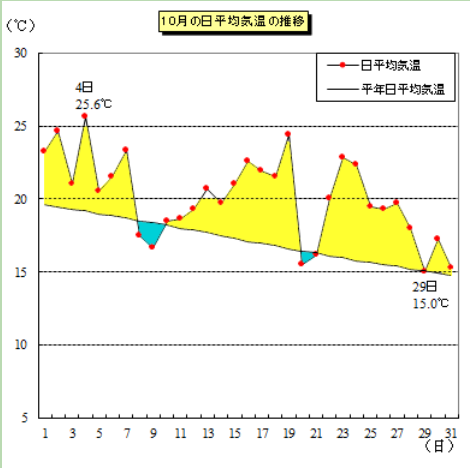
10月の気温

10月に真夏日を観測したのは観測開始以来9日しかありませんが、4日には真夏日を観測するなど、気温が大きく変化するときもあり、特に19日の最高気温は27・9度、20日の日中の最高気温は18・7度と10度近い変化がありました。



10月の気候

10月は、上旬と下旬の終わりには前線が南北に移動し、中旬は北日本を低気圧と高気圧が交互に進むことによって、天気が周期的に変化しました。気温が高く、月平均気温は20・1度となり、10月として最も高くなりました。雨を観測する日は多くなりましたが、月合計降水量は158・5ミリと平年の88パーセント、月合計日照時間は、106・5時間と平年より少なくなりました。



一ヶ月予報（気象庁発表）

天気は平年と同様に晴れの日が多い予想で、暖かい空気に覆われやすい見込みです。平均気温は「高い」、降水量は「平年より多い」、日照時間は、「ほぼ平年並み」となる見込みです。

前日との大きな気温差

10月19日と20日のように、前日との気温の差が大きくなることはどれくらいあるのか、調べてみました。

日立市役所における昭和28年からの最高気温の前日との差が5度以上の日を調べています。

平均で年間46日、最も多い年は73日、少ない年で22日と年により差があります。また、前日より5度以上高くなったのは46日のうち27日、逆に前日より低くなったのは19日でした。月ごとにみると、3月から5月は平均5回以上あり、他の月より1から2日多くなっています。気温が高くなっていく時期ですが、寒気が入ることも多いため、気温の変化が大きくなりやすいことが原因のひとつかと思われます。一方、同じ季節の変わり目である秋の時期は、月2回前後と変動が少ない時期となっていました。

しかし、最近10年間の平均をみると、年間、48日と2日程度多く、月ごとにみると、夏の時期は減っていますが、秋から春にかけて多くなっており、10月は2日増えていました。前日より高くなる日数は変わらず、低くなる日数は増えているため、秋以降は、以前よりも寒気の影響が少なく、時折入る寒気との差が大きいのが原因のひとつでしょうか。

天気用語の基礎知識

台風の上陸、接近

台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「日本に上陸した」としている。ただし、小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とされる。なお、「接近」と言う統計もあるが、この接近とは気象台などから300km以内に台風の中心が入った場合を言う。

平年の台風の発生数は25・1、接近数は11・7、上陸数は3・0となっており、関東地方への接近数は3・3である。上陸日が最も遅い台風は1990年の28号で11月30日に和歌山県に上陸している。

・・・・神峰の山から・・・・・・・・

現金を使う機会が以前と比べてかなり減ってしまっているため、2024年7月3日から流通しはじめた新紙幣に、なかなか出会えませんでした。しかし、先日ついに見ることができました。ある現金自動預払機でお金をおろしたところ、1万円札が新紙幣で出てきてくれました。ちょっとテンションがあがってしまいました。もしかすると千円札も新紙幣かもしれないと思い、追加で千円もおろしてみましたが、残念ながら新紙幣ではありませんでした。

千円と五千円はまだ新紙幣に遭遇しておりません。